phyllae, 殊に *P. tenuisecta* を Subsect. Resupinatae と Sect. Siphonantha 中の Series Polyphyllatae (此の Series を筆者は, Sect. Tibeticae 中に含めて考へたい。) との中間型と見做し, Series Furfuraceae を, Subsect. Rostratae から Sect. Siphonantha への進化の中途にあるものと見てゐる。

VI. 四川シホガマ節 Sect. Tibeticae.

從來, Sect. Siphonantha に入れられたり, 或は Sect. Rhyncholopha 中で Hypo=siphonanthae なる亞節の取扱ひを受けてゐたものの中で次の如き特徴を有する植物群を玆に纏めて獨立の節とする。花筒は Sect. Siphonantha や Sect. Orthorrhynchae の如く伸長しないが galea の rostrum は Sect. Rhyncholopha に較べて著しく細長くなり, 屢々環狀乃至 S 字狀となる。葉序, 及び花序に關してはセリバシホガマ節 Sect. Axillares と似てゐるが, Sect. Tibeticae の對生葉は屢々不規則で互生に或は極めて稀に輪生になる傾向をもつた種類を含むでゐる。Sect. Rhyncholopha 中の Series Tristes から系統をひいてゐることは, 上記の花冠形態のみならず, 植物體全形の類似からも推察出來る。本節を兩つの亞節 Subsect. Tibeticae 及び Subsect. Brevitubae に分ける。四川シホガマ *P. torta* (山蔦一海氏採集, 四川省, 峨眉山產の標本を檢す。) 及びチベツトシホガマ *P. tibetica* を含む Series Oxycarpae を以て本節の基準とする。他に Series Oliganthae 及び Series Polyphyllatae が Subsect. Tibeticae に屬する。後者は Prain 氏が, Sect. Rhyncholopha 中の Series Microphyllae に混入してゐたものの一部を含むでおり, Bonati 氏が他の數種と共に Sect. Siphonantha の下に取纏めた小群である。 Subsect. Brevitubae 群は名の示す如く花筒が著しく短いこと, 及び生育型に於てかなり前亞節から異つてゐる。本節の類緣關係は各種類の所屬, 取り扱はれ方の變遷を辿つても略々推量出來るであらうが, 玆には詳論を避け, 後記セリバシホガマ節 Sect. Axillares の項で, もう一度顧ることとする。

○クモキリサウの語源に就て (津山 尙)

蘭科のクモキリサウ (一名クモチリサウ) の語源に就て牧野先生は日本植物圖鑑に次の樣に書いてゐられる。「和名は雲切草並に雲散草の意乎或は山上に在るより謂ふ乎, 而して予未だ之が解を得ず。」と書いてゐられる。所が小生所藏の平井宗源氏の寫本「花卉小錄」(文化4年の完成) によると雲霧蘭,雲霧草の名が擧げてあり, これも亦適切な名である樣に思はれる。上記の寫本の他の部分の出來上りから見て平井氏は相當確りした本草學者であつたと思はれるから, 解釋の當否は別としても, その時代にかゝる解釋があつたことは確である。いつか上の寫本を牧野先生にお目にかけた時, 先生も亦かゝる可能性を考へてゐられた樣に拜見した。